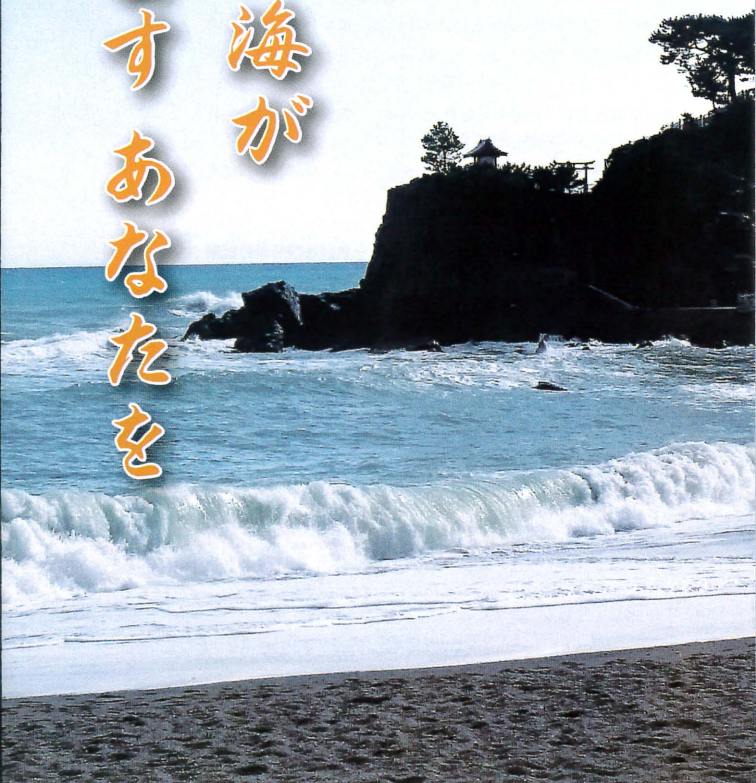


好きです海が
守りますあなたを



公益社団法人 日本水難救済会



名誉総裁
高円宮妃久子殿下

高円宮妃殿下におかれましては、
初代名誉総裁高円宮殿下のご遺志を受け継がれ、
平成15年2月19日付で本会の名誉総裁にご就任
いただきました。

妃殿下には、在りし日の殿下とともに海に親まれ、
海の大切さ、海の厳しさについてのご造詣が深く、
ボランティアで海難救助にあたる本会の役割の重要
性を強くご認識いただいております。

“青い海、明るい海、豊かな海” を永遠に

我が国は、6,800からの島々から成り立ち、海岸線の総延長は、
約34,000kmにも及び古来より、海から大きな恵みを受けてきた
海洋国です。

一方、海は時として私たちに厳しい試練を与えます。

洋上で働く人々は、常に怪我や病気の不安に晒され、
また、沿岸でのマリレジャーでも様々な海難が発生しています。
このようななか、海を愛する心と奉仕の精神を持つボランティアの
方々が自らの危険を顧みず、人命救助に懸命に取り組んでいます。

日本水難救済会は、全国52,000人のボランティア救助員を支援し、
その活動を支えています。

海の恵みに感謝するとともに、安全な海を永遠にと願って…。

沿革

- | | |
|-------------------|---|
| 明治22年(1889)11月3日 | 古来「海の護り神」として広く知られる
讃岐金刀比羅宮の宮司琴陵宥常氏の
発起で、讃岐琴平の地で大日本帝国
水難救済会発会 |
| 明治23年(1890)4月 | 有栖川宮威仁親王殿下を初代総裁に
推戴 |
| 明治29年(1896) | 本会事業の国家経営の建議案が貴・
衆両院を通過、毎年補助金下附決定 |
| 明治31年(1898)11月 | 民法の制定・施行に伴い、社団法人
大日本帝国水難救済会と登記 |
| 明治37年(1904)3月 | 社団法人帝国水難救済会と改称 |
| 大正2年(1913)8月 | 東伏見宮依仁親王殿下を二代総裁に
推戴 |
| 大正11年(1922)8月 | 伏見宮博恭王殿下を三代総裁に推
戴、昭和21年3月ご退任 |
| 大正13年(1924) | 国際水難救済会議に出席(昭和3年、
7年、11年、50年、58年、62年、平成3
年にも出席) |
| 昭和14年(1939)11月 | 東京九段軍人会館で、本会創立50周
年記念式典を挙行 |
| 昭和24年(1949)4月 | 社団法人日本水難救済会と改称 |
| 昭和25年(1950)7月 | 青い羽根募金開始 |
| 昭和60年(1985)10月 | 本会に洋上救急センターを設置、洋上
救急事業開始 |
| 昭和63年(1988)9月14日 | 本会が特定公益増進法人に認定 |
| 平成元年(1989)11月3日 | 本会創立100周年を迎え、10月26日に
東京港で救難訓練全国大会、27日に
日本海運倶楽部で記念式典を挙行 |
| 平成7年(1995)10月1日 | 洋上救急制度発足10周年を迎え、10
月4日に日本海運倶楽部で記念式典
を挙行 |
| 平成9年(1997)6月12日 | 定款の一部改正を行い、各支部の地
方組織としての独立化作業を開始 |
| 平成13年(2001)2月14日 | 全臨海都道府県41ヶ所に地方組織
(地方水難救済会)を整備 |
| 平成13年(2001)7月25日 | 高円宮殿下を初代名誉総裁に推戴 |
| 平成14年(2002)11月21日 | 名誉総裁高円宮殿下薨去 |
| 平成15年(2003)2月19日 | 高円宮妃久子殿下を二代名誉総裁に
推戴 |
| 平成19年(2007)6月 | 国際海難救助連盟設立総会に出席 |
| 平成21年(2009)11月 | 創立120周年 |
| 平成23年(2011)4月 | 公益社団法人日本水難救済会へ移行 |
| 平成27年(2015)10月5日 | 洋上救急制度創設30周年を迎え、10
月5日に海運クラブで記念式典を挙行 |

海を愛し、 人に奉仕する心。

128年間、脈々と受け継がれてきた 海上の安全のために奉仕する精神

我が身を顧みず人命救助に尽くす、日本における
水難救済の歴史。それは、讃岐琴平の地に始まる。

讃岐の地に古くから「海の護り神」と呼ばれてきた金刀比羅宮があります。金刀比羅宮の由緒については二つの説があり、そのひとつはヒンドゥー教のガンジス川の神クンビーラが仏教に取り入れられ宮比羅大將となり、神仏習合によって金毘羅大権現が成立。クンビーラがガンジス川の水神であったことから、日本では海上交通の護り神として信仰されてきたというものです。もうひとつの説は、古代、金刀比羅宮がある象頭山の麓まで入江が入り込んでいたため、金刀比羅宮は「海の護り神」として信仰されるようになったというものです。

明治19年のノルマントン号事故を機に水難救済の 必要性を痛感した金刀比羅宮宮司、琴陵宥常氏。

明治19年(1886)10月、イギリスの貨物船「ノルマントン号」が紀州大島沖で座礁沈没しました。この時、イギリス人乗組員は全員脱出して助かりましたが、乗り合わせていた日本人23人は船に取り残され全員が水死しました。この水難事故は幕末に締結した日本と諸外国との間で結ばれていた不平等条約がからみ、大きな国際問題になりましたが、同船船長に対する責任は事故の規模から見ると極めて軽微であり、日本国民の感情を大きく傷つけました。

この事故の経緯や結果をみて、金刀比羅宮宮司であった琴陵宥常氏は海上安全を祈願しながら水難救済制度の必要性を痛感しました。



金刀比羅宮 御本宮



象頭山金毘羅全図

明治22年、今日の日本水難救済会の礎が築かれる。 初代総裁に有栖川宮威仁親王殿下を推戴。

明治22年(1889)3月、琴陵宥常宮司は当時の総理大臣黒田清隆伯爵に会い、水難救済会設立に大きな賛同を得ました。さらに、当時の海軍次官等と設立について協議を重ね、同年11月3日の天長節に讃岐の金刀比羅宮において「大日本帝国水難救済会」の開会式が推挙され、ここに今日の日本水難救済会の礎が築かれました。

越えて、明治23年(1890)4月、有栖川宮威仁親王殿下を初代総裁に推戴するとともに、役職員を充実し、事務組織を逐次整備して、その基礎を固めました。

宥常宮司は明治25年(1892)2月、琴平で逝去されましたが、海の安全と人を尊ぶ精神は変わることなく今も脈々と受け継がれています。



琴陵宥常氏の像

敵兵を救助した水難救済会の人道主義に東郷提督が感謝。

明治38年(1905)、日露戦争での日本海海戦で日本海軍はロシアバルチック艦隊を撃破しましたが、このとき2名の敵兵が水難救済会によって救助されました。この人道主義の発露ともいべき水難救済会の行動に東郷提督は心を打たれ、水難救済会のために黄金色の扇に「義普 八紘 愛續 四海」の書を残しています。この書の意味は、水難救済会の正しい活動(義)が国内外隅々に(八紘)普く広がり、さらに、愛が世界の海(四海)に広がる(続く)と解釈できます。

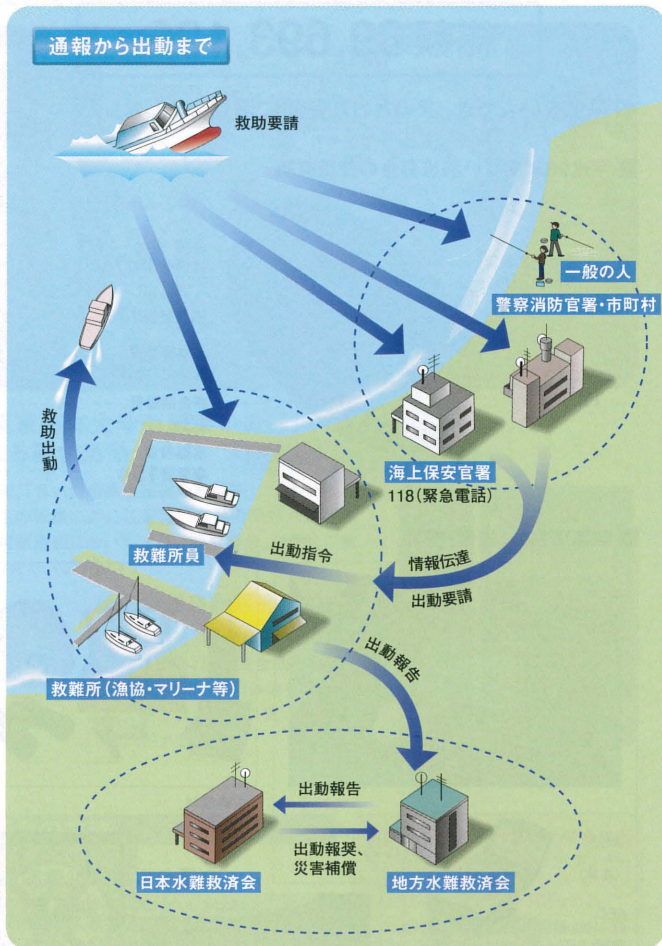


海難救助

荒天暗夜を問わず海難救助に馳せ参ずる海の救難ボランティア。

設立以来、平成28年12月末までの救助人員は196,592名、救助船舶は40,020隻を数えます。

事故の無い平和な海を祈りながら、万が一の時に備え、日々の訓練や救難器具の整備に努めています。



● 過去の出動実績

救助件数

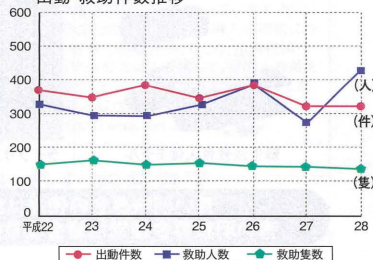
	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
人	322	295	294	327	392	278	423
船舶	153	167	155	165	144	143	136

出動件数

	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
船舶海難	221	216	207	203	207	186	184
人身事故	152	126	175	138	173	137	142
計	373	342	382	341	380	323	326

単位:件

出動・救助件数推移



救命索発射訓練 (山形県)

救助に必要な知識、技術習得のために

各種訓練

海難の救助は夜間や荒れ狂う海で行われることが多く、遭難した人や船を救助するためには、日頃から救助技術の錬磨と、チームワークを養う必要があります。各救難所では、日本財団の助成を受けて、いざという時に備えて訓練を実施しています。

救助活動を強力にサポート

救難器具

救助作業に必要なゴムボート、消防兼排水ポンプ、救命索発射器、発電機、担架、救命胴衣、トランシーバーなどの器具は、青い羽根募金等の寄付金を受けて整備する一方、海上保安庁からの無償貸与も受けています。これらの器具は、いつでも使用できるよう各救難所に保管されています。



ゴムボート操法訓練 (北海道)

全国の主要救難所に配備

救助船

救助船は、郵便事業株式会社のお年玉付年賀葉書等の寄付金による補助等を受け、主要救難所に配備され、現在全国に24隻が活動中です。



第五あしがら (神奈川県:真鶴救難所)

奉仕の精神に報いるために

救助出動報奨

救難所員の献身的な海難救助行為に対し、社会公共の感謝を表す報奨の意味で、出動した救難所員に対し、一定の救助出動報奨金が支給されます。

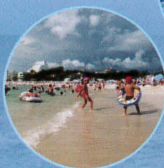


大岳救難所 (福岡県)



海難だ！
いざ出動！

好きです海が
守りますあなたを
青い羽根



MRJ 海の救難ボランティア

公益社団法人 日本水難救済会

ホームページ: <http://www.mrj.or.jp>



→まずはアクセス!!



インターネット募金



青い羽根募金

検索



クレジットカード



集められた募金は、海の救難ボランティア52,000人の
尊い活動資金として使用されます。国民の皆様のご協力をお願いします。



公益社団法人 日本水難救済会

〒102-0083

東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル7階

TEL: 03-3222-8066 FAX: 03-3222-8067

ホームページ <http://www.mrj.or.jp>

E-mail v1161@mrj.or.jp

2017.6.9000.KOBU